

倒壊危険度ワースト1位



耐震補強モデルハウス

住宅密集の墨田区京島

建物の倒壊危険度「ワースト1位」の判定を受けた東京都有数の木造住宅密集地、京島地区(墨田区)に二月、耐震補強の効果を示すモデルハウスがお目見えする。築七十年の家庭に費用が手ごころな五種類の簡易補強を施し、まちなみ耐震化を促すのが狙い。計画を進める住民組織の「京島地区まちづくり協議会」は「ある程度家が崩れたとしても、少しの補強で圧死の悲劇を防ぐことができれば」と話す。

安価な手法で防災PR

「耐震モデルハウス」

生まれ変わるのには、一九二三年の関東大震災後九二三年の関東大震災後に建てられた築約三十年の二階建て家屋。呉服店として使われた空き店舗で、「耐震強度は基準を相当程度、下回る」と(同協議会)。

約三千世帯が暮らす京島地区は空襲被害が少なかつたこともあり、関東大震災後につくられた築八十年前後の木造家屋が密集しており、五年に一回調査する都の地震に関

ふれないようコの字形の耐震フレームで強化するほか、はり柱の接ぎ目にバネ付きの免震金具を取り付け、壁に石こうボードをはめ込むなどの工法を取り入れる。最も安価な工法は数万円程度で済む見込み。

計画に協力する「墨田まちづくり公社」の担当者は「地区内で耐震診断をした結果、強度が基準の〇・一〇・二程度の

「改修」は十三件にとどまった。計画を進めている協議会の中心メンバー、野村さん(71)は「地域に多く住む高齢者世帯が耐震工事に出せる費用は限られていて、全壊を防ぐような大規模補強は難しい。玄関補強などが

あれば、家が壊れても最低限逃げ出せる支えになる」と話す。地元の大工らが十五日から作業するモデルハウスは二月上旬にも完成し、三月末まで公開、公社の職員が立ち会い、補強の内容や工期、コストなどを説明する。野村さんは「さまざまな工法を間近で見てもいい、地震に備える大切さを地域が一緒になって考えるきっかけにしたい」と話す。



老朽化した空き店舗に耐震補強工事を施し「モデルハウス」

木造一戸建て 83%倒壊の恐れ

日本木造住宅耐震補強事業者協同組合(木耐協)が震度3強クラスの大地震で倒壊する可能性が「ある」、もしくは「高い」と判定されたとの調査結果をまとめた。耐震診断を実施した二千三百六十四戸の一戸建て木造住宅のうち、八三%

業界団体が診断

同様の傾向を示している。国の推計でも耐震性が不十分な一戸建て木造住宅は全国で一千万戸に上るとされ、木耐協は早急な診断と改修を呼び掛けている。住宅所有者の希望に基づいて診断を実施したのは、一九五〇―二〇〇〇年に着工された住宅で、平均築年数は二十四年。震度6強でも倒壊しない

早急な改修呼び掛け

よう壁の割合を増やすなど耐震基準を強化した一九八一年の前後で比較すると、大地震で倒壊の可能性が「ある」「高い」の合計は、旧基準が九六%、新基準が七六%だった。新基準でも耐震性に問題がある割合が高いのは、二〇〇〇年に建てられた一部基準がさらに強化されたためとみられる。